

一ノ二二、笠置寺縁起（菅家本）

出典 校刊美術史料、寺院篇 藤田経世編 中央公論美術出版 一九九九年五月

解説 この縁起集のうち、東大寺から法隆寺迄の部分は大江親通が保延六年（一一四〇年）に著した七大寺巡礼私記をもとに編集されたようであるが、その他の寺院については紙背文書や記載記事からみて、大体南北朝時代に作られたものと思われる。

笠置寺関係においても、貞慶の記事があることから同様だと思われる。元弘の役で灰燼に帰した笠置寺もなお寺院としての体裁をとっていたことは注目に値する。

蟄居

原文 件寺者、天智天皇御願也、本尊丈六石像也、貞慶上人久住当寺給了、云般若台所也

読み下し文

件の寺は天智天皇の御願也、本尊は丈六の石像也、貞慶上人久しく当寺に住み給いましたぬ。云うに般若台の所也。